

令和6年度 学校評価 総括評価表

徳島県立城西高等学校神山校

本校の教育基本方針

- ① 「知徳体」の調和のとれた人間性豊かで自主性、創造性に富み可能性を拓く生徒を育成する。
- ② 国際的な視野をもち地域社会の発展のため積極的に行動できる次代を担う生徒を育成する。
- ③ 確かな学力を身につけ、これからの社会をたくましく生き抜き未来を創造する生徒を育成する。

【重点課題1】 「伝える力」「協働する力」「深める力」の育成

基礎基本を重視した教科指導を徹底するとともに、体験学習やICTを活用した授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。

【重点課題2】 「神山モデルの確立」

生徒一人一人を大切にした教育活動を通して、基本的生活習慣の定着に努めるとともに、豊かな人権感覚や思いやりの心で正しい判断と行動ができる生徒を育成する。

【重点課題3】 「地域人材を育成するキャリア教育の実践」

個々の多様な能力・適性・関心等に応じたきめ細かい進路指導を推進する中で、社会的・職業的自立に必要な能力と態度を育成し、生徒の進路実現を図る。

【重点課題4】 「防災・環境教育の充実」

地域や学校の環境美化活動を主体的に行動できる態度を育て、安全・安心な環境整備に努め、「自助」「共助」の防災活動ができる地域防災を担う生徒を育成する。

【重点課題5】 「地域で学び 地域と育つ神山校の推進」

「地域との協働による高校教育改革推進事業」を継承し、「神山創造学」を中心に、農業教育を通して地域に根ざした取り組みを積極的に行い、地域の中で主体的に行動できる実践力を育成する。

自己評価				学校関係者評価		次年度の課題と 今後の改善方法	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見		
1 「伝える力」「協働する力」「深める力」の育成	(全体レベル) (1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 (2) 神山校で育てたい力の「伝える力」「協働する力」「深める力」を全教科の評価の観点にすえ、生徒が主体的に学習に取り組む力を養う。 (3) 図書に触れる読書活動を充実させ、豊かな感性を育む。 (4) G I G Aスクール構想実現に向けて、I C Tの有効的な活用を目指し、1人1台端末を用いて個別最適化学習を行う。 (下位組織レベル) ① 基本的な学習態度の向上に向けた取組を推進する。 ② 各教科ごとに、評価を行うための評価基準を作成し、客観的で一貫性のある評価を行うことで、生徒のやる気に結びつける。 ③ 図書室の有効的な活用を推進する。 ④ 各教科におけるI C Tを効果的に活用した授業を探究する。	評価指標 ① 「高校生のための学びの基礎診断」に認定された測定ツールの利活用【(1・2年生)1回目より3回目の偏差値が上昇した生徒の割合60%以上】 ----- ②-1 育てたい3つの力を根底に据え、職員全体が同じ方向を向いて教育活動を行うための研修会の実施【教職員研修会年間6回以上】 ②-2 教員相互による授業力向上に向け授業公開週間の実施【全教員の授業見学6回以上】 ----- ③-1 朝の読書週間の実施【各学期ごとに実施】 ③-2 図書室の有効利用【生徒への貸出1人5冊以上】 ----- ④ I C T活用に向けての研修会の実施【教職員研修会年間3回以上】 活動計画 ①-1 1・2年生は年3回、3年生は年間1回基礎力診断テストを実施し、自身の基礎学力の定着を確認する。 ①-2 小テストにより、生徒の理解度やつまづきを早期に把握し、繰り返し演習等を行うことにより、基礎学力の向上及び定着を図る。 ----- ②-1 新学習指導要領の実施に伴う新3年生の年間指導計画および評価基準を作成し、学期末および単元終了時に評価を行う。また、全学年において、神山校で育てたい3つの力「伝える力」「協働する力」「深める力」を評価の観点に据えたものを作成する。 ②-2 教科等を超えて長期的に育成する資質・能力に関するものを作成し、評価する。 ----- ③-1 朝のホームルームの時間を活用し、1回10分程度の読書時間を設定する。 ③-2 購入図書の希望調査を行うなど、興味・関心の高い図書を購入する。 ----- ④ 授業公開週間にI C Tを用いた授業を実施し、指導力向上に取り組む。	評価指標の達成度 ① 基礎力診断テストの実施【(1・2年生)1回目より2回目の偏差値が上昇した生徒の割合42.0%】 ----- ②-1 研修会を実施【教職員研修会年間6回実施】 ②-2 各学期に授業公開週間を設定【全教員の6回以上の授業見学率73.6%】 ----- ③-1 朝の読書週間の実施【3回実施】 ③-2 図書室の有効利用【生徒への貸出1人2.8冊】 ----- ④ I C T活用に向けての研修会の実施【教職員研修会年間3回実施】 活動計画の実施状況 ①-1 基礎学力を確認するテストを1・2年生は年間3回、3年生は1回実施した。 ①-2 小テストの実施に際して、家庭で事前学習を必ず行うよう指導するとともに、基礎的問題の演習時間を多くとることにより、基礎学力の定着に努めた。 ----- ②-1 新3年生の年間指導計画及び評価基準を作成し、学期末および単元終了時に評価を行った。また、全学年において、神山校で育てたい3つの力「伝える力」「協働する力」「深める力」を評価の観点に据えた年間指導計画を作成した。 ②-2 各学期に1回ずつ授業公開週間を設け、教員相互の授業力向上に努めた。教科等を超えて長期的に育成する資質・能力に関するものを作成し、評価するための研修を行ったが、作成には至っていない。 ----- ③-1 普段はあまり読書をする習慣がない生徒も、事前に図書室で本を借りる時間を作ったり、自宅から本を持ってくることを促したりすることで、本と向き合う時間を作ることができた。 ③-2 希望図書の全てを購入することはできなかったが、小説や食・農業等の関する図書を購入した。 ----- ④ 定期的にG I G Aスクールサポーターに来校してもらい、教材研究やソフトウェアの活用についてアドバイスを受け、I C Tを活用した授業の指導力向上に取り組んだ。4・9・12月に教職員研修会を実施した。	評価 B ----- B ----- B ----- A	総合評価 B ----- (所見) 高校生のための学びの基礎診断テストに向けて、家庭での事前学習や補習授業を行ったが、1回目より2回目の偏差値が上昇した生徒は4割程度であり、目標数値を下回った。昨年度とほぼ変化はなかった。 育てたい3つの力を根底に据え、職員全体が同じ方向を向いて教育活動を行うために、年間6回の研修会を実施し、昨年度から継続的に行っている研修の在り方についても見直しを行った。 自発的な読書習慣の定着には至らなかったが、日常生活の中で少しでも図書に触れる時間を作ることを目的に取り組んだ。 各教科の授業において、I C Tの有効的な活用方法を探究することを目指した。また、積極的に教材研究や研修会を行い、I C Tを用いた授業の指導力向上に取り組んだ。	○ 学習指導計画の評価基準に「三つの力」の観点を取り入れたことを評価するとともに、今後のさらなる改善を期待する。 ○ 読書週間の学習効果を高めるために、週間終了後にレポートや感想を提出するなど、それを表現する時間が必要ではないか。 ○ 図書室のリニューアルにより、生徒が本を手に取りやすい環境になった。生徒がより図書室へ足を運ぶ機会を増やすために、図書室の運営について生徒も含めて検討を行ってはどうか。	○ 基礎学力の定着に向けて朝のホームルームを活用した学習活動や、classiを活用した週末課題の実施、また長期休業中の課題テストや放課後の補習の方法などを見直す。 ○ 今年度実施した全学年の年間指導計画及び評価基準を見直し、改善を図る。その際、今年度新たに加えた神山校で育てたい3つの力「伝える力」「協働する力」「深める力」を評価の観点に据えたものを改善する。 ○ 評価におけるルーブリックの活用について、校内研修を行う。 ○ 今年度は、図書室の改修工事のため、2学期の中頃まで図書室を利用することができなかった。来年度は、より図書室を利用したくなるように蔵書の配置等を工夫していきたい。 ○ I C Tを用いた授業のさらなる指導力向上を目指すとともに、急な休校等にも対応できるI C Tの有効的な活用についても今後探求していく。

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方法	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見		
2 神山モデルの確立	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 挨拶の励行や時間を守るなど基本的生活習慣の確立を図る。また、規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につける生徒指導を推進する。</p> <p>(2) 交通マナーを向上させ、交通事故を防止するとともに、公共交通機関の乗車マナーを考えることができる生徒を育てる。</p> <p>(3) 他者を思いやる心を育み、自尊感情を育て、いじめを防止する。</p> <p>(4) 個々の特性に応じた支援体制を推進する。</p> <p>(5) 町内行事や地域環境、社会生活で学び、気づきの発見や郷土愛を高める活動を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 頭髪・服装検査の実施及び違反者への改善指導の実施【違反者率10%未満】</p> <p>①-2 全校集会の実施【毎月実施】</p> <p>①-3 情報モラル向上のため、関係機関と連携した組織的な取組【年間3回以上】</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 毎月1回以上の頭髪・服装検査を実施【違反者率10%未満達成】</p> <p>①-2 全校集会の実施【毎月実施】</p> <p>①-3 防犯教室を、全校生徒を対象に1学期当初に実施【1回実施】</p>	<p>評価</p> <p>B</p>	<p>○ 重点目標について「～を持った生徒を育成する」など、目指すべき生徒像へ変更してはどうか。</p> <p>○ 徳島県の自転車ヘルメット着用は努力義務ではあるが、学校独自の取り組みとして、着用率100%を目指してはどうか。</p> <p>○ 情報モラルの向上を目指し、より充実した指導や取り組みを進めていくべきで、今後の取り組みに期待する。</p>	<p>○ 全国的に校則の見直しに取り組まれているなかで、本校も継続して生徒会を中心に見直しを行った。今年度は、生徒からの要望事項が少なく、現状維持となったが、過ごしやすい学校生活につながる校則にしていきたい。</p> <p>○身だしなみ等、違反が認められる場合は、全教職員で根気強く指導し、改善につなげる。</p> <p>○ いじめに関する事案が起きないように努める。スマホなどのトラブルは年度当初の防犯教室の開催や、授業前に預かるなど継続した指導を行う。また、SNSを利用するマナーを理解させるための指導を充実させる。</p> <p>○ 自発的に挨拶ができる生徒が少なく、神農クラブが中心となり、協力して挨拶運動を盛り上げていく。</p> <p>○原付通学を許可しているが、遠隔地からの通学で運転適性に心配な生徒も存在する。集会や個別指導を含め、事故防止に努める。</p> <p>○ これからも全教職員で協力し生徒理解に努め、安心・安全な学校生活への支援や、過ごししやすい学校環境を整えたい。</p> <p>○ 校内教職員人権研修を通して知見を広げたり、共通理解を持って生徒と関わったりできるように教職員研修の内容を検討していく。</p>	
		<p>②-1 神農クラブ、交通委員による交通マナーアップの実施【毎月2回】</p> <p>②-2 毎月20日を学校安全日とし、登校指導の実施。【毎月1回以上】</p> <p>③-1 人権ホームルーム活動の実施【年間5回以上】</p> <p>③-2 教職員人権研修の実施【年間3回以上】</p> <p>④-1 担任、特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員が協力して教育相談体制を構築</p> <p>④-2 教職員の特別支援教育に関する知識・意識の向上【理解度・満足度90%以上】</p> <p>⑤ 町内行事や孫の手活動の積極的な参加と活動</p>	<p>②-1 交通マナーアップの実施【毎月1回程度実施】</p> <p>②-2 登校指導の実施【毎月1回以上実施】</p> <p>③-1 人権ホームルーム活動の実施【各学年5回実施】</p> <p>③-2 教職員人権研修の実施【年間3回実施】</p> <p>④-1 関係する教職員と今後の対策について協議を必要に応じて随時実施した。</p> <p>④-2 特別支援教育研修の実施【理解度・満足度90%】</p> <p>⑤ 有志の生徒、寮生や孫の手メンバー生徒は、意欲的に活動した。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>			<p>(所見)</p> <p>学校生活は全体的に落ち着いており、重大な生徒指導事案は発生していない。しかし、一部の生徒に服装違反等がある。その都度指導し、改善できた。</p> <p>また、基本的生活習慣が確立していない生徒への声かけと家庭への協力を依頼した。</p> <p>登下校時における交通事故等は、バイク通学生のスリップ転倒自損事故が発生している。運転者の軽症と軽微な車体の修理程度であるが、原因は状況判断の誤りと運転技術の未熟が考えられる。交通安全教育を推進し、事故の防止に繋げたい。</p> <p>スマホや携帯電話の使用については、授業前に集めて返却するルールを守り、ほとんどの生徒が適切な使用ができています。休み時間等ではスマホを利用している。</p>
	<p>(下位組織レベル)</p> <p>① 基本的生活習慣の確立する。</p> <p>② 交通ルールの遵守と、交通マナーを向上させた安全教育の確立する。</p> <p>③ 「自分の気持ちを伝える」「相手の意見を聞く」などの対話力を養う。(道徳教育)。</p> <p>④ 教職員間での特別支援体制の確立及び関係機関との連携を推進する。</p> <p>⑤ 町役場、関係機関と連携し、地域や郷土を愛する活動を生み出す。</p>	<p>活動計画</p> <p>①-1 毎月全校集会を実施し、全職員で支援・指導を行う。</p> <p>①-2 スマホ、情報端末の使用におけるマナーアップ指導と防犯教室を開催する。</p> <p>②-1 学校安全日に自転車、原付利用者の車両点検の実施する。</p> <p>②-2 関係機関と連携し、講習会を実施する。</p> <p>③-1 生徒の実態に即した内容を扱うとともに、事例検討等の体験活動を取り入れる。</p> <p>③-2 研修会等で得た知識・情報を、校内で報告し合い、他の教職員と共有する。</p> <p>④-1 教育相談室の環境を整え、キャリアアドバイザーとともに支援・指導を継続させる。</p> <p>④-2 個々の特性について教職員間で共有し、支援を実施する。</p> <p>⑤ 町役場と連携し、町内行事に参加。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 全職員共通理解のもと、生徒の支援・指導を実施し、改善を図っている。</p> <p>①-2 警察署と連携し、防犯教室を実施した。携帯電話等のマナー向上のため、全校集会で周知している。</p> <p>②-1 毎月20日に立哨指導を実施し、交通安全に役立てることができた。</p> <p>②-2 薬物乱用防止教室、原付免許実技講習会等、関係機関と連携し実施できた。</p> <p>③-1 生徒の様子や状況を教職員間で共有し、必要に応じてホームルームや学年集会等を実施することで、相互理解につながるように務めた。</p> <p>③-2 研修会等での資料等を教職員間で回覧したり、学年等での話合いで活用したりすることで生徒に還元した。</p> <p>④-1 キャリアアドバイザーと連携し、教育相談室を有効に活用できている。</p> <p>④-2 支援が必要な生徒に対しては、キャリアアドバイザーと連携し、全教職員が共通理解のもとで対応している。</p> <p>⑤ 防災活動、町内行事に参加した。</p>				

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方法
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
3 地域人材を育成 するキャリア教育 の実践	(全体レベル) (1) キャリア教育を推進し、進路 指導の充実を図り、個々の多様 な能力・適性・関心等に応じた 進路を実現させる。 (2) 主権者として社会に生きる自 覚を高める主権者教育を推進す る。 (3) 職業教育を推進し、専門的な 知識や技術を習得させる。	評価指標 ①-1 町をフィールドにした職業体 験の実施【満足度80%以上】 ①-2 進路説明会等の実施【年間3回以上】 ①-3 3年生就職希望者の応募前職 場見学や職場体験への参加【参加率100%】 ①-4 卒業時における進路実現【進路決定率100%】 ①-5 生徒の希望に応じた企業訪問 の実施【生徒希望企業への訪問100%】 ----- ② 主権者としての自覚の高揚 【様々な社会問題への関心や、主 体的に考える意識が高まったと 回答した生徒の割合70%以上】 ----- ③ 資格取得の奨励 【3年生で3つ以上の資格の取得率 70%以上】 【アグリマイスター認証5人以上】	評価指標の達成度 ①-1 町内での職場体験、インターンシ ップに参加【満足度88%】 ①-2 関連企業や大学等と連携し、進路 に関するガイダンスを実施【年間7回】 ①-3 応募前職場見学や職場体験に参加 【参加率100%】 ①-4 卒業生26名の進路決定 【進路決定率96%】 ①-5 生徒の希望する企業への訪問 【生徒希望企業への訪問100%】 ----- ② 専門機関と連携した講演会等の実施 【様々な社会問題への関心や、主体的 に考える意識が高まったと回答した生 徒の割合80%】 ----- ③ 資格取得割合 【3年生で3つ以上の資格の取得率81%】 【アグリマイスター認証2人】	評価 A 		

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自 己 評 価				学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方法	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見		
4 防災・環境教育 の充実	(全体レベル) (1) S D G sの「つくる責任・つかう責任」や「住み続けれるまちづくり」を推進し、地域や学校の環境に配慮する。 (2) 感染症対策を徹底し、安全・安心な学習環境を整備する。 (3) 関係機関と連携し、「自助」「共助」の防災活動と命を守る防災意識の高揚を図る。 (下位組織レベル) ① 節電・節水・ゴミの分別を徹底し、校内の美化活動を行うとともに、環境調査を実施する。 ② 基本的な感染予防対策を徹底し、感染予防に努める。 ③ 安全教育の充実を図り、効果的な防災教育を実証し、適切な防災避難訓練の企画と展開を図る。	評価指標 ①-1 リサイクルやリユースからゴミの減量に努め、環境に与える影響を考察 【ゴミ分別率100%】 ①-2 地域の清掃活動に生徒・教職員で活動 【各クラス年間2回以上】 ----- ②-1 基本的な感染予防対策の定着 【口頭指導や啓發文書配布】 ②-2 日頃から清潔な空間を保ち、適宜、感染予防対策に努める。 ----- ③-1 災害・火災に対する避難・消火訓練の実施や学校防災クラブの活動展開 【消防署員との合同練習1回以上】 【災害に対する訓練年間3回以上】 【地域と連携した活動1回以上】 ③-2 高校生の防災士の育成 【防災士合格者1名以上】	評価指標の達成度 ①-1 毎日の清掃を通したゴミの分別 【ゴミ分別率90%】 ①-2 地域での活動 【ゴミゼロキャンペーン年間1回】 【アドプト事業年間9回】 【バス停清掃年間20回】 ----- ②-1 感染予防対策を徹底 【学級閉鎖等0件】 ②-2 ホームルーム、特別教室等において、休み時間等に適宜換気を実施 ----- ③-1 避難・消火訓練 【消防署員との訓練1回】 【災害に対する訓練3回】 【地域(役場)と連携した活動1回】 ③-2 令和5年度高校生防災士の育成 【防災士合格者1名】	評定 B A A	総合評価 A ----- (所見) 弁当やカップラーメン等の容器を洗浄しゴミの分別ができた。 防災クラブのメンバーを中心に、生徒だけの避難訓練を実施できた。き本年度は、各クラスの判断で、安全な場所と思われる場所に避難し避難場所を職員が探す訓練も実施できた。 今年度も「ふるさと大好き！地域防災推進事業」を継続している。防災研修にも積極的に参加し、意識を高められ、高校生防災士に1名が合格することができた。 日々の指導により、健康観察や手指衛生、喚起の励行ができた。特に喚起については基準値を満たすことができ、感染症の予防となった。 防災クラブのメンバーと地域や役場、関係機関と連携し、防災避難所の運営や消火訓練、炊き出し訓練等に参加した事により、地域の防災意識が高まった。	○ 重点目標について、より具体的な評価基準を示してよいのではないか。 ○ ③-2について、チェックシートの結果は数値を公開することで、評価分析を行ってはどうか。 ○ すだちでJGAP認証を取得していることから、環境に配慮した農業が実践されていることが分かる。この実績を具体的な評価基準に組み込んではどうか。	○ ゴミの分別や、生活ゴミを減少するための対策を検討する。 ○ 積極的な防災活動を通して、地域で活躍できる行動力を持った生徒を育成するとともに、防災士を中心とした防災クラブの活動を活性化させ、地域と連携した防災活動を実施する。 ○ 来年度も引き続き、手指衛生・換気をはじめとした感染予防対策の指導に務めていく。 ○ 高校生防災士資格試験の合格者を増やすための勉強会を実施する。 ○ 教室美化コンテストを継続し、生徒の環境美化に対する意識を高める。
		活動計画 ①-1 各教室に啓發文書等を掲示し節電・節水・分別ゴミの減量に取り組む。 ①-2 ゴミゼロキャンペーン・アドプト事業・バス停清掃と、校内教室美化コンテストを実施し、教室環境を整える。 ----- ②-1 日々の生活の中で健康観察、手洗い等の手指衛生、換気の励行を促す。 ②-2 十分な換気を行い、汚染箇所は適宜消毒を行う。 ----- ③-1 台風・積雪時期に事前備蓄点検を実施する。 ③-2 避難訓練を実施し、チェックシートを作成し、評価と分析、改善を行う。 ③-3 地域・防災クラブが連携し、炊きだし体験を実施する。 ③-4 A E Dを使った心肺蘇生法研修を全生徒・教職員で実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 昨年度に各教室に分別用のゴミ箱を増やし、分別が細かくできているが、生活ゴミの減少まで至っていない。 ①-2 ゴミゼロキャンペーン・アドプト事業等を計画的に実施できた。毎月、校内教室美化コンテストを実施することで、教室の環境が整えられた。 ----- ②-1 担任からの口頭指導や保健だより等を通して、手洗い等の手指衛生と換気を励行した。 ②-2 休憩時間換気の徹底に努めた。2月に実施した空気検査では基準値を満たした。 ----- ③-1 台風・積雪時期に、事前の備蓄品(2日分)の点検と災害対策を実施した。 ③-2 定期的に避難訓練を実施し、防災クラブの生徒が主体となって避難訓練を実施した。全国一斉情報伝達を利用し、校内での避難訓練を3回実施した。 ③-3 役場や地域と連携し防災避難所の設営体験を実施した。 ③-4 3月19日(水)に実施予定				

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と 今後の改善方法
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
5 「地域で学び 地域と育つ神山 校」の推進	(全体レベル) (1) 地域で学び地域と育つ神山校 を推進する。 (2) 「まめのくぼプロジェクト」 を推進し、発展させる。 (3) 専門的な知識・技術を習得さ せる。 (4) 神山校での専門科目に関する 学びを発信する。 					

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった